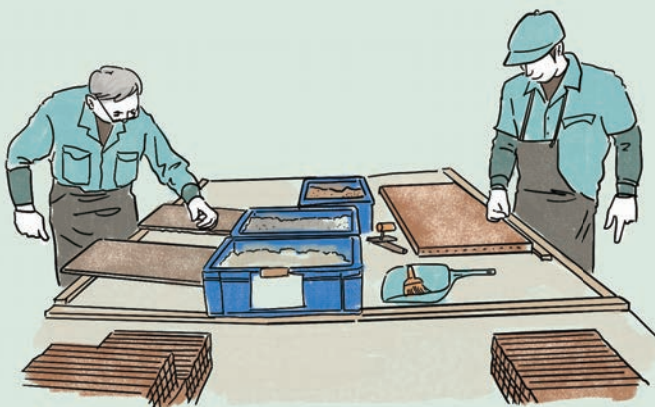


成形・施釉・焼成

昔ながらの焼き物らしい質感を生む 「湿式製法」

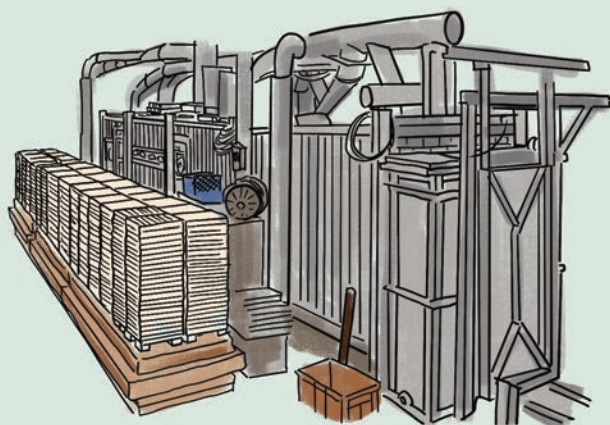
湿式製法は、水分を含んだ練り土状の原料を押出成形機で板状に押し出し、所定の寸法に切断して成形する製法。原料の含水率が高いため、焼成すると収縮やひずみが生じやすく、それが焼き物ならではの個性や質感、いわゆる「味」を生み出す。少ロットの生産が可能で、大量生産では生み出せない温かみのある美しさを表現することができる。



成形・施釉・焼成

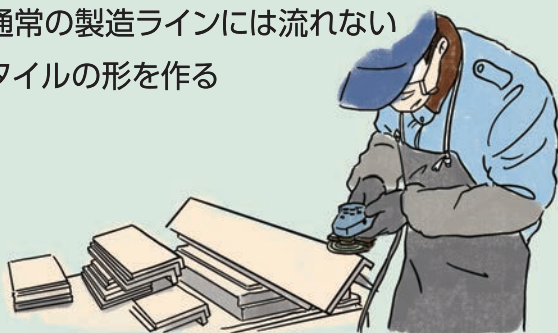
均質な粒子で大量生産を可能にする 「乾式製法」

乾式製法は、金型に粉末にした原料・坯土を入れ高圧力で成形する製法。均一な薄板状のタイルの大量生産に適していて、内装タイルやモザイクタイルなどの大半がこの製法で作られる。乾燥・焼成にかかる時間が短く、湿式製法に比べて寸法精度が高く品質が安定。近年は、生産技術の向上で湿式タイルの味わいに近いタイルの生産も可能になっている。



役物成形・加工

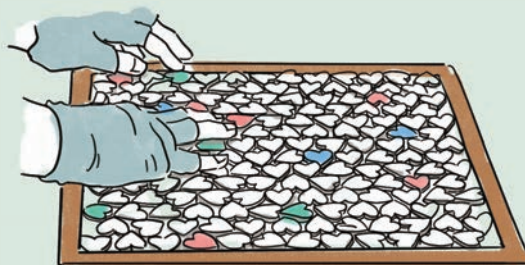
通常の製造ラインには流れない タイルの形を作る



タイルは、大量生産される「平物」だけでは多様な使い方ができない。建物のコーナーや開口部などに使用される「役物」成形は、焼成する前の複雑なパーツの成形を受け持つ。「加工」は、焼成後にカットしたり、接着や貼りを施すことで、付加価値のある多様なタイルを生み出す。通常の製造ラインとは別の、タイルにけるものづくりの現場がある。

貼り加工

モザイクタイルをシート状に仕上げる



貼り加工は、モザイクタイルをシート状に仕上げる工程で、紙貼りやネット貼りがある。シート状にすることで、小さなタイルのバラ石を特定のパターンに形成できる。作業する人は「貼り子さん」と呼ばれ、隆盛期には地域の主婦や農閑期の定番の内職だった。また、モザイクタイルで絵画を作るタイルアートにも、細やかな貼りの技術が活かされている。